衛星干渉SAR観測に及ぼす 大気中水蒸気の影響評価について

Estimation of Atmospheric Water Vapor Effects on Satellite InSAR Observation

〇鄭 敏学·福山 薫(三重大学) 大村 誠(高知女子大学)

O Minxue Zheng, Kaoru Fukuyama (Mie University) Makoto Omura (Kochi Women' s University)

E-mail: fukuyama@bio.mie-u.ac.jp

1998年5月6日~1998年6月19日 JERS-1 SAR

研究地域の地形



研究目的

- 高精度GPV-MSMデータを用いてSAR 電波の水蒸気分布の影響評価を検証 GPV-MSM:気象庁は2002年7月から提供 地表面約10 kmメッシュ 高層各等圧面約20 kmメッシュ
- 2. 詳細な高層気象データがない衛星 JERS-1干渉SARに対して類似天気図法 を用いて水蒸気分布の影響評価を検討

研究方法

類似天気図法

- X:JERS-1データ取得日の天気図
- Y:2003年次降(GPV-MSMデータが存在)の ある日の天気図
- X≒Yとなる Yの日を探す

Xの日のInSAR解析に

Yの日のGPV(MSM)データを適用

- GPV-MSMデータを探す必要条件
 - 1) 地上天気図が類似
 - 2)季節が同じ
 - 3) 地表面気象観測データが類似
 - 4)高層気象の観測データが類似



JERS-1データ取得日の 天気図(X)

GPV-MSMデータ 存在の日(Y)



1998年5月6日の天気図



2004年5月27日の天気図



1998年6月19日の天気図

2004年5月16日の天気図

1024

地表面気象観測データの比較

日付		名	古屋		四日市					
	T(°C)	P(hpa)	RH(%)	R(mm)	T(°C)	P(hpa)	RH(%)	R(mm)		
19980619(X)	21.9	1007	97.0	1.0	22.1	1007	100.0	2.0		
20040516(Y)	17.7	1009	93.0	0.0	17.9	1009	93.0	2.0		
差	4.2	1.3	4.0	1.0	4.2	2.3	7.0	0.0		
19980506(X)	20.6	1024	79.0	0.0	17.9	1024	100.0	0.0		
20040527(Y)	23.3	1022	59.0	0.0	22.4	1023	64.0	0.0		
差	2.7	1.5	20.0	0.0	4.5	1.2	36.0	0.0		
T-気温(℃)P-海面更正気圧(hPa) RH-相対湿度(%) R-降水量(mm)										

2004年5月16日と1998年6月19日

2004年5月27日と1998年5月6日 -

7

地表面気象状況

類似

高層気象観測データの比較

潮岬											
	925hPa			850hPa			800hPa				
Date	T(°C)	A(m)	RH(%)	T(°C)	A(m)	RH(%)	T(°C)	A(m)	RH(%)		
19980619(X)	21.1	747.0	98.0	17.0	1477.0	100.0	13.4	1993.0	97.0		
20040516(Y)	18.5	767.0	94.0	14.9	1489.0	94.0	12.9	2001.0	98.0		
差	2.6	20.0	4.0	2.1	12.0	6.0	0.5	8.0	1.0		
	925hPa				<u>850hPa</u>		<u>800hPa</u>				
Date	T(°C)	A (m)	RH(%)	T(°C)	A (m)	RH(%)	T(°C)	A (m)	<u>RH(%)</u>		
19980506(X)	17.0	858.0	96.0	13.5	1577.0	97.0	11.1	2086.0	96.0		
20040527(Y)	14.9	856.0	84.0	10.1	1566.0	68.0	6.7	2067.0	96.0		
差	2.1	2.0	12.0	3.4	11.0	29.0	4.4	19.0	0.0		
浜松											
	925hPa			850hPa			<u>800hPa</u>				
Date	T(°C)	A (m)	RH(%)	T(°C)	A(m)	RH(%)	T(°C)	<u>A(m)</u>	<u>RH(%)</u>		
19980619(X)	19.1	747.0	94.0	16.1	1473.0	94.0	13.8	1988.0	94.0		
20040516(Y)	18.9	762.0	92.0	15.7	1486.0	90.0	13.4	2000.0	88.0		
差	0.2	15.0	2.0	0.4	13.0	4.0	0.4	12.0	6.0		
	<u>925hPa</u>				<u>850hPa</u>		<u>800hPa</u>				
Date	T(°C)	A(m)	RH(%)	T(°C)	A(m)	RH(%)	T(°C)	A(m)	RH(%)		
19980506(X)	14.9	857.0	92.0	12.1	1572.0	92.0	9.6	2078.0	85.0		
20040527(Y)	15.4	866.0	61.0	10.2	1577.0	74.0	6.3	2078.0	86.0		
差	0.5	9.0	31.0	1.9	5.0	18.0	3.3	0.0	1.0		
T-気温(°C) A-ジオポデンシャル高度(m) RH-相対湿度(%)											

2004年5月16日と1998年6月19日 -

2004年5月27日と1998年5月6日

高層気象状況

類似

以上の条件を満たすGPV-MSMデータ(Y) 2004年5月16日と2004年5月27日 JERS-1データ取得日(X) 1998年6月19日と1998年5月6日 気象状態を反映できる

水蒸気の影響評価



地上面から300hPa高度までの比湿の和 水蒸気分布はかなり異なる(約1.7倍)



大気遅延量計算(島田, 1999)

GPV-MSMデータを用いて大気遅延量を推定する



まとめ

- 復元した両観測日の水蒸気量の差及び推定した大気遅 延量の分布は、差分干渉SAR位相の空間分布パターン と類似.
- 両日の水蒸気分布による大気遅延が差分干渉位相に 大きな影響を与えている可能性が高い.
- 研究対象地域のJERS-1の1シーンで大気遅延量水平 分布の最大差は3.2cm.
- 高精度GPV-MSMの水蒸気分布を用いれば、SAR電波の 大気遅延の影響を評価できる.
- 類似天気図法は、高精度の高層気象データの存在しない JERS-1干渉SARの大気遅延の評価に有効に利用できる。